

警察裏の公園に釜ヶ崎地蔵が

ーフグ中毒事件との後ー

中野奈加志



前号で新之祭屋や公園でのフグ中毒事件について、公園で死んでいたまき南（木村重空）君のことを書いたところ、各方面より好意ある世評やら宛地を寄せられました。

メ切肉屋の事件であったので、ついまともりのないはこり書きであったが、そつとこいぬいに書けばよかったです。というご批判もあつたので、私のせいというところも悔しいところか、予想外の反響がありましたので、事件のその後の様子についてお知らせしたいと思います。

やはりフグ中毒であつた

公園での回名と付立その二名について、フグ中毒であることが、数日後朝日新聞に小さく出ていただけで、他には見かけなかつた。

一箇所を覗き出すと、ぼろぼろのぼろぼろの

だより、5月11日、オハヨに「先般、あいらんの子が加齢が食中毒により死亡した」と何故かフグ中毒であることがホヤけてしまつてい

る。有名なお料理店者が有名料理店で、自から好んでフグの肝を食つて死んだときには、食べた人よりも食べさせた店が悪いと、さんざん罵られた。店も休業せざるほどのせめ方をする新聞や、町や警察が、金の子加齢が突如で死んで、誰かフグの肝を、どこで食べたのか、追及しようとするところか、ウヤムヤにしてしまつてい

その後の公園

さて、事件があつたのが十月二十六日であるが、その日、四人が死んで、たまたまには誰か、ごしらえたのが、小さな物の上にロートク、

警備、庭の花が供えられていた。

そして、夜あそびまで次々と顔見知りらしい仲間者が訪れ、湯と熱水で熱をグシヨクくにしたから、くやし泣きする人もあった。

二七日午前五時通行、アみると、ローソクも燃焼もたえることなく、そのゆきに、ごっとうずくまっていたいる人がいる。きいてみると、お通夜や。と一言、存じおのこに居たようである。

二日目の夜は昇壇は更に大きくなっていた。白布を被せた箱の上に、仏像かわりの人形が並び、世帯紙の壁紙が裏かれ、おにぎりの入った籠やリンゴ、バナナ、油、並、そして熊鷹、ローソクが數十本、あかき、と公園の一角にゆらぎ、地獄盆の存在を先知らせる。

三日目の夜、空壇のあたりはさらに静かになっていった。

前まで書いた李達南の外国人を執証不持事事件で身柄引受人になった、芝野の袖台役員をさしている川が来たときには、サイコロを入れる箱が二つ、いざおにも何かなかりとくちり

それがあつたようで、みんな得心がいったように、さつさり白けたあかきやわらひだ。その後何日たつてもローソクと燐香と其とどきにワソカッアの酒がたえることがなかったが、ついになくさぬの日が来た。

柵で囲まれた公園

事件から一ヶ月も過ぎた頃だろうが、公園に金剛の鉄柵が張り廻らされた。そして、四人のやじで跡形もなくとりのもかかれてしまっていた。

夜になると入口に電を^新かけて公園に入れなくしてしまつたのだ。

日本国中がしてこんなおかしな世にあるだろうか。

そしてこの公園にテレビが設置にきた。放送機を下さる風流を安ん、録しをききなから司会役のタレントが、この鉄柵のこと質問していた。

何を事件を知らず、片むめてきたタレントでも、オリ力中のうっせと園には面くらうた

が、いくらかずつ入っている。

まのりにいた一人が、「この金、誰がもらうんや。エエ、ううん、フウーン……誰がもって行くんやろな……誰もハツキリした言葉にならない。くばらくはらよって白けさみになった。」

「ほしりそのかもって行つたらエエのや、全部もって行くな……メシ食えんものがメシ代もろて行つたらエエのや。」

電へ木村達男のことは死んでからおぼしめしたりよる、それでエエのや………事件聞らして手取の人がボツリ々、と言つた、そして一人が手を出し、いくらかの鉄ぶつかんだが、他には誰の手を出さない。最初の手を出して向うへ行きかけた甲か、またもどつてきて鉄をもどし、ハツの電でうなだせている。

「ほしけりせまろとけよし強が放言つた。ほしけりときにもろたらエエかな、また誰かがきつた。『もろたらあがんで行けよ』また誰かがつけおえた。

のだらう。四年前、花園北公園のテント、はつた。中公園をつくるという言葉をあえて行つたのは何故か。フグ中事事件の行政責任を押しかくすためのものであかない。

青カンの根本原因をただすことなると、公園は柵をするといつまで解決すると鬼、ていふことしたら、大阪市はその責任を世間からすむけのそのでかかない。

西心と東区区の公園全部に柵をしたら、青カンをしてい入非なくなるか、そんなことをしたら大阪中、いや日本中の公園に柵をせんならんよとになるすまを備置行政……

柵物に及も？したつもりがまた、まともりのないものになつてしまつたが、仕事をせたくて、という言訳にならぬか。

電に木村達男について自身柵引受人の透写の川を通過して丸小倉に世と事だり、大阪には鉄が足ることが分つた。小倉にはあ

る程度彼の住居の様子を知らせることができ
た。

大阪の妹さんとも近く会えるハズになつて
いる。

「おわり」

公園の閉鎖と四十八日をめぐつてのある感想

萩之系^中公園の使用禁止の告示の日付が十
一月二十五日、柵を立てる作業が始まったの
は翌日等の諸君が東京へ行つた留守の二十六
日か二十七日、柵の完成はそれより一週間に
内、銭があらされたのが十二月十二日にま
ま門へ感不実主催者不登会の日、翌十三日
に全面閉鎖。とにかく十二月十二日までには
さ出した公園を役えた。

そして、幸き南さんらの四十九日が、確か
十二月十三日のはずではなかつたか。

公園の実際の閉鎖時期を決め、実行したの
が西成署か公園管理事務所かは知らないが、
ある善美を何かせような社会ではある。
しかし、しかし然らば人殺し行政の末端を
荷っていることは動かしようのない事実だ。

山谷情報

一時金二万二千五百円が、正月六日間の休業
補償として、手帳の有効な人へ推定約六千人
ぐらいいに、十二月十六日、支給された。

貸定基準一失付積金Z A—ラウク三、七三
四円×六日分十九六円。

貸は七千五百円、山谷の冬以下。支給額で
東西ツリアイをこつた為か？

特別求人へ特出し—一日五千三百円。一日
七〇人が基礎。十二月十二日から、速湯・

手帳へ百三十人増、十九日からは五〇人増（
ドレール）、九日から六〇人増（ハ柱登

園）、現在、特出しを一日三百人にするよう
要求中。

公共事業日雇労働者優先吸収制度—常用や直
交で現保をまかたっているが、それぞれに社会

保険をかけず、事業主としての責任を明確に
していなければ、山谷で求人するよう

行政が強力に指導すること。